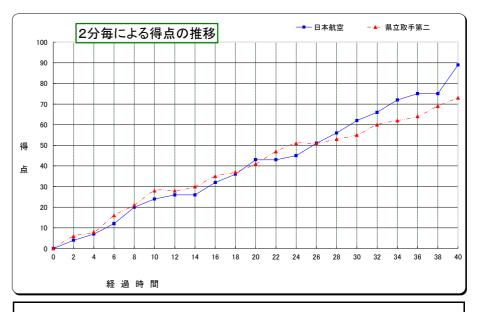
## 平成28年度第27回関東高等学校 バスケットボール新人大会

平成29年2月11日(土) 春日部ウィングハット 1回戦

ı	チームA							Ι	チームB
	日本 <b>航空</b> (山梨)	89	<b>\</b>	24 19 19	1st 2nd 3rd	28 13 14	}	73	県立取手第二 (茨城)

番	氏名	得	3	Р	2	:P	F	T	_ = =	リバ	ウンド	77 "	72.71	ブロック	6 v.d*
号	氏 名	点	成功	試行	成功	試行	成功	試行	反 則	OF	DF	スチール	アシスト	ショット	ターンオーバー
4	後藤 涼輔	2	0	0	1	3	0	0	4	1	2	0	5	1	2
5	宮田 大倭	2	0	0	1	4	0	0	2	5	2	4	0	0	1
6	神谷 璃空	22	2	15	6	12	4	4	2	1	2	2	3	0	1
7	ザン ズージェイ	31	2	4	12	16	1	3	2	5	11	2	3	0	4
8	福井 徹平	3	0	1	1	2	1	2	0	1	1	0	1	0	1
9	磯貝 慧	0													
10	ワン ツェンイー	11	0	0	5	11	1	3	1	4	8	0	0	1	3
11	平田 柊人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
12	古田 哲平	5	0	0	2	5	1	2	1	0	3	1	1	0	1
13	竹元 陸	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
14	勇上ヴィシュワ慧悟	0													
15	佃 修斗	0													
16	小石 璃音	10	0	2	4	7	2	3	1	2	3	0	0	0	3
17	岡田 拓弥	0		,				,		,	,				
18	坂本 敦也	0													
コーチ	西原哲大	0	0	0	0	0	0	0	0	4	7	0	0	0	1
		89	5	23	32	60	10	17	13	23	39	10	16	2	17
		確率	21	.7%	53	.3%	58	.8%		計	62				

番	氏 名	得	3P		2P		FT			リバウンド				ブロック	
号		点	成功	試行	成功	試行	成功	試行	反 則	OF	DF	スチール	アシスト	ショット	ターンオーバー
4	吉野 純貴	6	0	1	3	12	0	0	4	0	3	3	4	0	2
5	鈴木 騰偉	19	0	3	9	18	1	1	2	0	6	1	3	0	3
6	伊多波 瑛	2	0	0	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0
7	中村 克也	10	0	0	3	9	4	4	3	3	2	0	1	0	4
8	畠山 隼也	8	0	0	4	9	0	0	4	5	3	1	2	0	1
9	渡辺 力也	4	0	0	2	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0
10	村井 源哉	13	3	6	1	2	2	2	3	0	2	0	0	0	0
11	児玉 龍也	0													
12	古川 聖	0													
13	井越 一輝	0													
14	田中 辰弥	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
15	中川祥一郎	11	3	11	1	7	0	0	3	1	5	2	0	0	2
16	宇留嶋晴哉	0													
17	浜野 敦	0													
18	古沢 斗真	0													
コーチ	佐藤豊文	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0
		73	6	22	24	61	7	7	20	12	25	7	10	1	12
		確率	27	.3%	39.3%		100.0%			計	37				



## 戦部

第1P、両チーム共にハーフコートマンツーマンでスタート。取手第二がファーストブレイクからミドルシュート・ドライブインで先行すると、日本航空はセンターを#7に交代しスピードに対応、オフェンスでリバウンド、3Pを連続して決め互角の展開となる。攻守が目まぐるしく変わる中、28対24で取手第二が僅かに4点リードして終了。

第2P、日本航空はセンター#10に合わせるがシュートが決まらず、再び#7に交代。しかし、取手第二もシュートの確率が上がらず、6分過ぎ1点差でタイムアウトを取る。両者一進一退の攻防が続き、激しく選手交代を繰り返し運動量を維持しながら持ち味の速い展開をキープし、43対41で日本航空が逆転に成功して前半を折り返す。

第3P、取手第二がディフェンスでプレッシャーを強めると、日本航空のターンオーバーを誘い8連続得点し再度逆転に成功。ディフェンスで流れを掴んだかに見えたがオフェンスのリズムが悪く、その後5分間得点出来ない我慢の時間が続く。逆に日本航空は井7のドライブイン、井6の3Pで11連続得点し、62対55、日本航空がリードを広げて終了。

第4P、シュート確率の上がらない取手第二に対して、日本航空は積極的に非4、#6のドライブインで得点を重ね、4分過ぎこの試合初めて10点差とリードを広げる。時間の少なくなった残り3分、取手第二はタイムアウトからディフェンスをオールコートマンツーマンに変え6連続得点で激しく追い上げるが、日本航空も落ち着いてドライブインからの合わせで得点を重ねる。疲れの見える取手第二に対し、日本航空は長身センター#10を再度投入しゴール下を優位に展開し、89対73で勝利した。

記入者:増田義治

 Ref
 坂本秀樹
 1st U
 荒木晋之
 2nd U